

「ステレオグラム (4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



机上の静物は、比較的簡単にステレオグラムの制作ができることがわかった。今度は屋外に出て、風景を撮影してみようと思う。「勘」で言えることは、「近景・中景・遠景の要素がそろった、奥行きのある風景が適している」ということである。これは、絵を描くときの構図決定によく似ている。絵の場合でも、安定した構図になるのだ。幸い、北軽井沢にはそういう風景がいたる所にある。あえて定義すれば、こうなる。

- ・「近景」；ちょっと体を動かせば触れるもの。
- ・「中景」；歩いて行ける程度の距離にあるもの。
- ・「遠景」；簡単には行きつけない距離にあるもの。

たとえば上の写真、近景に樹木とキャベツ畑、中景に建物と森、遠景に浅間山・・・非常にバランスの良い絵画的な構図である。上記の「定義」にも合っている。このような風景を、視線をすらして撮影すればいいわけだ。



交差法

平行法



交差法

平行法

2枚とも「近景・中景・遠景」のバランスはいいが、上の道の写真のほうが、はるかに強く奥行きを感じる。これは、近景から中景への視線移動(道)が連続していることに起因している。下の風景は近景(玉蜀黍畑)と中景が完全に区切られてしまい、強い奥行は感じない。風景を選んで撮影することが、大切だとわかってきた。